

(表1) 2010年夏休みの旅行動向数値

	2010年夏休み			2009年夏休み	
	推計値	前年比	前年増減	実績推計	前年比
総 旅 行 人 数	7,656万人	+4.1%	303万人	7,353万人	2.9%
国内旅行人数	7,412万人	+4.0%	284万人	7,128万人	3.0%
海外旅行人数	244万人	+8.4%	19万人	225万人	+0.4%
国内旅行平均費用	35,300円	+2.9%	1,000円	34,300円	4.2%
海外旅行平均費用	218,700円	+3.0%	6,400円	212,300円	14.7%
総 旅 行 消 費 額	3兆1,500億円	+7.8%	2,275億円	2兆9,225億円	8.3%
国内旅行消費額	2兆6,164億円	+7.0%	1,716億円	2兆4,448億円	7.1%
海外旅行消費額	5,336億円	+11.7%	559億円	4,777億円	14.4%

- * 旅行人数は、延べ人数数値。平均費用は一人1回あたりの費用
- * 国内旅行人数は宿泊を伴う旅行者の人数(観光および帰省目的の旅行に限る)
海外旅行人数は出国者数(業務目的の旅行を含む)
- * 国内旅行平均費用は、交通費・宿泊費・土産代・食費等の旅行中の諸費用を含む
- * 海外旅行平均費用は、燃油サーチャージ含む。旅行先での土産代等の現地支払費用は除く

< 2010年夏休み(7月15日～8月31日)の旅行の特徴 >

夏の旅行者数は、国内・海外ともにリーマンショック以前の水準に回復へ

景況感の改善とともに消費者の旅行意欲も高まってきており、リーマンショック以降、景気の低迷とともに減少した旅行者数も大きく回復すると推察する。

2010年夏の国内旅行者数は7,412万人(前年比+4.0%)に達し、2008年夏の7,348万人を上回る。また、海外旅行者数は244万人(同+8.4%)となり、2008年夏の224万人を大きく上回る見込みである。

旅行支出に薄明かり

企業業績の回復基調から、夏のボーナス支給額が微増となり、消費者の旅行支出への意欲が前向きになってきている。

消費者アンケート結果では、今後の旅行支出について「支出を増やしたい」が前回調査より3.6%増加。「回数も単価も同程度」が4.5%増加しているのに対し、「支出を減らしたい」は4.1%減少している。一方、旅行に行かない理由の「景気が悪いから(4.7%)」「家計の制約(0.5%)」など経済的な理由の回答は減少している。しかしながら旅行平均費用は、国内・海外ともに2008年のリーマンショック以前には届いていない。

(参考) 今後の旅行支出に対する意向の変化(P8、表10) 単位:% ()は前回との差

	今回(2010年6月)	前回(2009年6月)	前々回(2008年6月)	
支出を増やしたい	13.9 (+3.6)	10.3 (2.8)	13.1 (5.8)	
同程度	回数を増やし単価を減らしたい	13.3 (1.5)	14.8 (+2.8)	12.0 (+0.1)
	回数を減らし単価を増やしたい	5.8 (0.7)	6.5 (+0.6)	5.9 (+1.4)
	回数も単価も同程度	35.8 (+4.5)	31.3 (0.3)	31.6 (1.2)
支出を減らしたい	28.7 (4.1)	32.8 (2.4)	35.2 (+8.0)	

(参考) 今年の夏、旅行に行かない理由(P8、表9抜粋) 単位:% ()は前回との差

	今回(2010年6月)	前回(2009年6月)
休暇が取れない	29.6 (+0.5)	29.1 (+2.2)
混雑するので	25.0 (+0.1)	24.9 (0.9)
家計の制約	21.6 (0.5)	22.1 (+3.7)
景気が悪い	20.6 (4.7)	25.3 (+3.2)
家の事情で	19.5 (+2.1)	17.4 (+0.2)

海外旅行出発のピークは8月11～13日、国内旅行出発のピークは8月12～13日に

今年は昨年のような8月末の衆議院選や9月に5連休がないこともあって、海外旅行は8月前半、国内旅行は7月の3連休に出かける人も多い。出国者のピークは欧州などロング方面が8月11日(水)、近場のアジア、グアム・サイパンは8月12日(木)、13日(金)となる見込み。

これに対し、国内旅行ではお盆が8月13日(金)～15日(日)となることから旅行出発のピークは8月12日(木)～13日(金)となる見込みである。

< 国内旅行の特徴 >

この夏も高速道路ETC割引の利用意向は強い

今年の夏は高速道路や有料道路のETC割引(大都市近郊区間を除く割引対象区間が距離に関わらず1,000円)が引き続き土曜・日曜の週末に適用される。また、6月28日から37路線・50区間で無料化社会実験が実施されている。

下図はアンケートでこの夏に「旅行する」「多分旅行する」と答えた人についてETC割引を利用するかを聞いたものである。

この夏に1泊以上の旅行に「行く」「多分行く」と答えた人のうち、昨年3月以降ETC割引を利用したことがある人は60.0%。このうち、「この夏の旅行にETC割引を利用する」と答えた人は86.1%に達し、ETC割引の利用経験がある人は、この夏の旅行にもETC割引を利用する意向が高いことがわかる。

図1 過去のETC割引利用経験
(単一回答)

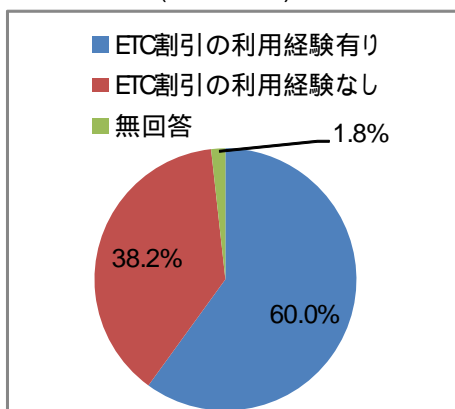
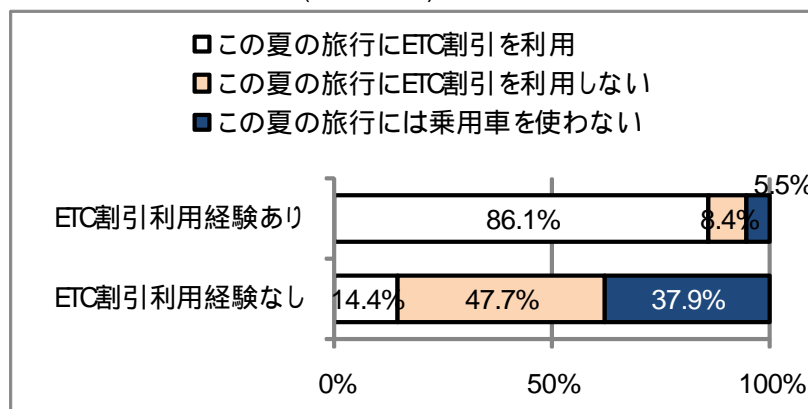


図2 この夏の旅行にETC割引を利用するか？
(単一回答)



旅を通じて子供の成長を手助けする体験プランが人気

夏の旅行はファミリー旅行が主体であるが、昨年は8月下旬に衆議院選挙があり、9月には5連休があったため旅行時期が分散した。今夏は参議院選も7月上旬に終わり、夏休みに出かけるファミリー旅行が増えるが見込まれる。各旅行会社も単にファミリー向けの割引プランに留まらず、家族が一緒になって体験できる観光プランで家族連れ旅行のニーズを取り込もうとしている。

エースJTBでは、旅先で“未知の世界”を体験したり、“本物”に触れることで、旅を通じて子供の好奇心を育み成長を手助けする「旅育」を発売している。子供だけではなく、親と子が一緒に体験をする中で、親子の絆をより深めることも目的の一つとしている。

平城遷都1300年祭、坂本龍馬、瀬戸内国際芸術祭

4月から開催されている平城遷都1300年祭で奈良・京都方面への観光客が増加している。8月20日(金)～27日(金)には光の天平行列などを組み込んだ「光と灯りのフェア」の開催が予定されており、近隣地域を中心に多くの観光客が見込まれる。また、大河ドラマ『龍馬伝』の影響で高知方面の宿泊予約も引き続き好調である。今後、長崎が舞台になることから、九州方面への観光客増の期待もある。

そして、7月19日(月)からは、直島、豊島、小豆島など瀬戸内海の7つの島を結んで「瀬戸内国際芸術祭2010」が開催される。船で巡る瀬戸内海の美しい景観、各島固有の文化・芸能・風土と現代アート・建築の交流を体験できる新たなスタイルのイベントとして注目される。

鉄ちゃん、鉄子さんにも注目

鉄子さんやママ鉄に代表されるように、女性の間でも鉄道好きが浸透し、鉄道が注目を集めている。

この夏はSLみなかみ、SL碓氷、SL磐梯会津号などのSLやトロッコ電車、特別車両などの臨時運転が予定されるほか、映画『RAILWAYS』の舞台にもなった島根県の一畑電車、“モグラ駅”の筒石駅（新潟県）や土合駅（群馬県）など、鉄道ファンのお話スポットや撮影名所が賑いそうである。また、都市部ではホテルの客室内から鉄道が見える宿泊プランなど人気が高い。

< 海外旅行の特徴 >

円高でお得感が増した欧州が人気

今年の夏の旅行はハワイ、グアム・サイパンが人気。お手軽で身近な韓国人気も引き続き高い。上海万博が開催されている中国への渡航者数も大きく増加しそうである。

注目されるのが、ユーロ安、英ポンド安によって円高メリットを享受できるヨーロッパ。今夏はスイス、ドイツ、フランスなどの観光地を周遊するツアーが人気を集めている。

また、各旅行会社は海外旅行でもファミリー向けの子供料金の割引を展開しており、ルック JTB では18歳未満まで適用される“ジュニア割引”商品の予約が好調である。

(参考) 各年6月末現在の各国通貨レート (単位:円)

	10年	09年	08年	07年
米ドル	90.32	97.01	107.42	124.26
ユーロ	112.17	137.03	169.57	167.14
英ポンド	138.55	163.54	216.35	250.88
韓国ウォン	7.66	7.71	10.39	13.52
中国元	13.17	14.01	15.58	--

資料:東京外国為替相場 / T.T.Selling (三菱東京UFJ銀行調べ)

海外旅行費用は昨年より 6,400円(+3.0%)上昇

韓国、中国、グアム・サイパンなど近場の旅行の比率が高いものの、欧州などの遠距離方面の旅行比率が増えることから、昨年よりも1人当り旅行費用は上昇する。為替レートは昨年より円高となっているが、航空会社の燃油サーチャージ額が上昇していることから、1人あたりの旅行費用は6,400円(+3.0%)上昇し218,700円になると見込まれる。

(参考)夏休み時期の燃油サーチャージ額の推移(日本航空の場合、往復、単位:円)

	10年	09年	08年	07年
韓国	1,000	0	7,000	3,400
中国	5,000	0	17,000	8,200
香港	5,000	0	21,000	3,200
台湾	5,000	0	21,000	10,400
グアム・サイパン	6,000	0	21,000	10,400
タイ・シンガポール・マレーシア	9,000	0	40,000	17,400
ハワイ・インドネシア	12,000	0	40,000	17,400
米国・欧州・中東・オセアニア	21,000	0	56,000	24,000

新規就航路線やチャーター便で選択肢も豊富に

今年3月から成田空港へ乗り入れたエミレーツ航空やエティハド航空など中東系の航空会社はサービスが人気で、これらの航空会社を利用したドバイ、トルコ、欧州方面の旅行が関心を集めている。

また、夏には目的地まで乗り継ぎなしで行けるチャーター便が多数運航され、クロアチア・スロベニアやポーランド、アラスカ方面など多くのツアーが組まれている。

さらに今夏は羽田発のグアム行きに加えて羽田発ハワイ行きのチャーター便が登場。羽田発のお手軽なツアーが人気を呼んでいる。

ルック JTBの予約状況 (人数 前年同期比)

2010年6月25日現在

出発日	アジア	中国	ハワイ	グアム・サイパン	北米	欧州	オセアニア
7/16～8/6	106.3	117.7	123.8	144.5	267.0	120.3	166.2
8/7～8/15	144.6	118.3	140.1	179.7	177.1	114.6	202.6
8/16～8/31	114.3	193.3	116.8	159.7	149.0	124.2	126.6

< 調査方法 >

調査地点：全国200地点

調査実施期間：2010年6月2日～14日

調査対象：全国15歳以上79歳までの男女個人

サンプル数：1,200名(1地点6名×200地点)

調査内容：2010年7月15日から8月31日に実施する1泊以上の旅行

調査方法：専属調査員による個別訪問調査(100%回収)

(表 2) 2010 年夏休み(7/15～8/31 発)の海外旅行人数推計

出国者の主な旅行方面

(単位:万人)

	2010 年	2009 年	前年比
総数	244	225	+ 8.4%
アジア合計	144.2	133.0	+ 8.4%
中国	41.8	36.4	+ 14.8%
韓国	40.8	37.2	+ 9.7%
台湾	11.8	11.3	+ 4.4%
香港	10.9	9.7	+ 12.4%
タイ	8.2	10.8	- 24.1%
シンガポール	6.4	5.6	+ 14.3%
インドネシア	8.0	7.1	+ 12.7%
マレーシア	4.0	3.5	+ 14.3%
その他	12.3	11.4	+ 7.9%
北米州合計	52.7	48.6	+ 8.4%
ハワイ	18.0	16.3	+ 10.4%
グアム・サイパン	16.4	14.8	+ 10.8%
米国本土	15.5	14.9	+ 4.0%
カナダ	2.8	2.6	+ 7.7%
欧州合計	34.5	32.5	+ 6.2%
大洋州合計	8.0	6.8	+ 17.6%
オーストラリア	5.6	4.5	+ 24.4%
ニュージーランド	1.0	0.9	+ 11.1%
南太平洋	1.4	1.4	0.0%
その他(アフリカ・中近東・中南米)	4.6	4.1	+ 12.2%

* 商用、帰省も含めた合計数値

* 2009年の人数は各国政府・観光局発表の日本人入国者数ならびに法務省統計から推計

(表3)利用宿泊施設(海外旅行を除く)

(複数回答)

	%	昨年差
ホテル	33.4	5.4
旅館	28.1	+ 5.9
実家・知人宅	27.9	3.8
民宿・ペンション	13.4	1.4
その他	5.5	0.1

(表4)利用交通機関(海外旅行を除く)

(複数回答)

	%	昨年差
乗用車	69.9	+ 0.7
* 鉄道	24.0	0.2
新幹線	14.5	+ 0.1
在来線・私鉄	13.4	0.7
航空機	14.5	+ 0.5
長距離バス	7.6	+ 2.6
フェリー・船舶	2.0	0.4
その他	0.4	0.7

* 新幹線・在来線の重複回答を除いた比率

(表5)同行者

	%	昨年差
家族づれ	65.8	+ 0.6
子供づれ(中学生まで)	35.0	+ 0.2
夫婦のみ	14.7	1.0
三世代	8.4	+ 0.8
それ以外(母と娘など)	7.7	+ 0.6
家族と友人・知人	5.9	2.2
友人・知人	18.5	+ 1.3
団体(職場など)	1.5	0.3
ひとり	5.5	+ 0.3

(表6)国内旅行先

	%	昨年差
北海道	7.9	+ 1.4
東北	10.5	+ 0.6
関東	20.7	1.0
甲信越	10.5	+ 1.4
北陸	4.4	0.3
東海	7.7	0.2
近畿	11.6	+ 1.6
中国・四国	9.9	+ 1.3
九州	7.3	3.5
沖縄	3.7	+ 1.0

(表7)旅行目的

	%	昨年差
帰省、離れて住む家族と過ごす	21.5	2.8
自然や風景を楽しむ	16.7	+ 4.4
温泉でゆっくりする	12.5	+ 0.7
海辺で保養・海水浴	9.5	1.1
テーマパーク・レジャー施設	7.3	3.0
家族や友人との親睦	7.0	0.4
史跡や名所を見る	4.8	1.1
ハイキング・登山・キャンプ等	4.8	+ 0.9
おいしいものを味わう	4.0	0.2
観劇・イベント参加・スポーツ観戦	2.6	0.6

(表8)旅行日数

	%	昨年差
1泊2日	36.3	5.5
2泊3日	37.6	+ 4.7
3泊4日	14.9	+ 1.9
4泊5日	3.5	+ 0.3
5泊6日	2.6	1.1
6泊7日	0.2	0.8
7泊8日	2.0	+ 0.8
8泊以上	1.8	0.9

(表9)旅行に行かない理由

(複数回答)

	%	昨年差
休暇が取れない	29.6	+ 0.5
混雑するので	25.0	+ 0.1
家計の制約	21.6	0.5
景気が悪い	20.6	4.7
家の事情で	19.5	+ 2.1
前後に旅行	13.7	0.5
休日が重ならず	12.4	+ 0.8
出かけるのが面倒	9.4	+ 1.1
旅行以外にやりたいことがある	8.9	0.4
夏は費用が割高だから	8.2	+ 1.3

(表10)今後の旅行支出に対する意向の変化(調査月ベース)

()は前回との差

	今回(2010年6月)	前回(2009年6月)	前々回(2008年6月)	
支出を増やしたい	13.9 (+3.6)	10.3 (2.8)	13.1 (5.8)	
同程度	回数を増やし単価を減らしたい	13.3 (1.5)	14.8 (+2.8)	12.0 (+0.1)
	回数を減らし単価を増やしたい	5.8 (0.7)	6.5 (+0.6)	5.9 (+1.4)
支出を減らしたい	28.7 (4.1)	31.3 (0.3)	31.6 (1.2)	
		32.8 (2.4)	35.2 (+8.0)	

* (表3)(表4)(表9)は、複数回答のため合計が100%を超え、それ以外は、無回答があるため合計100%にはなりません。

(参考) 夏休みの旅行動向数値の推移

	旅行人数(万人)			旅行平均費用(円)		総消費額
	総数	国内旅行	海外旅行	国内旅行	海外旅行	(億円)
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
2001	7,562	7,296	266	35,115	210,149	31,210
	+ 1.9%	+ 1.9%	+ 0.8%	2.0%	+ 2.0%	+ 0.4%
2002	7,612	7,369	243	33,654	213,091	29,978
	+ 0.7%	+ 1.0%	8.6%	4.2%	+ 1.4%	3.9%
2003	7,535	7,347	188	33,923	222,893	29,113
	1.0%	0.3%	22.6%	+ 0.8%	+ 4.6%	2.9%
2004	7,490	7,242	248	34,975	208,851	30,509
	0.6%	1.4%	+ 31.9%	+ 3.1%	6.3%	+ 4.8%
2005	7,604	7,365	239	35,300	214,600	31,128
	+ 1.5%	+ 1.7%	3.6%	+ 0.9%	+ 2.8%	+ 2.0%
2006	7,657	7,410	247	35,716	223,100	31,977
	+ 0.7%	+ 0.6%	+ 3.3%	+ 1.2%	+ 4.0%	+ 2.7%
2007	7,662	7,420	242	36,200	232,000	32,474
	+ 0.1%	+ 0.1%	2.0%	+ 1.4%	+ 4.0%	+ 1.6%
2008	7,571	7,348	224	35,800	249,000	31,884
	1.2%	1.0%	7.4%	1.1%	7.3%	1.8%
2009	7,353	7,128	225	34,300	212,300	29,225
	2.9%	3.0%	+ 0.4%	4.2%	14.7%	8.3%
2010	7,656	7,412	244	35,300	218,700	31,500
	+ 4.1%	+ 4.0%	+ 8.4%	+ 2.9%	+ 3.0%	+ 7.8%